

ところざわの暮らし今昔

7月は麦の脱穀の季節

畑の麦が黄色く色づく麦秋は、暦の上では5月末ころから6月初旬にあたります。畑作地帯の所沢市は、昭和30年代まではこの時期、辺り一面「麦の秋」が織りなす風景一色。風が渡るたびに、広い麦畑に大きな波が起り、その美しかったことを思い出します。



麦の脱穀「ポーチ」

「麦は十七を刈れ」といい、少し若いうちに刈るのが良いとされてきました。「十七」は17歳の娘の意で、17歳は若さの象徴でありました。麦は鎌で刈ります。大麦は小麦より少し早く5月の終わりに刈り、小麦は6月に入ってから刈ります。大麦は畑で幾日か天日乾燥させてから家に運びますが、小麦は束ねてその日のうちに家に運ぶのが一般的でした。

麦の脱穀は、江戸時代から大正時代くらいまで、主としてセンバコキ（千歯扱き）という道具で扱きました。これは鉄製の歯が30本くらい楕円状に台木に埋められたもので、この歯に麦の穂首を掛けて引っ張り、脱穀するものです。大正時代になると足踏みの輪転機が普及してきますが、いずれも完全に粒に落とすことはできず、さらにポーチと呼ぶ作業が伴います。ポーチは、麦の穂をクルリポウという道具で打って粒にする作業です。

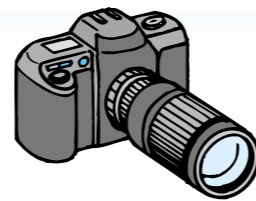
炎天下でしかも麦のノギ（芒）という針状の毛にまみれ、過酷な作業であったといえます。「大山さきの黒雲が あの雲がかかれば 雨か嵐か」とポーチ歌に歌われる歌詞のように、作業の促進効果を狙ったものがあります。ポーチに雨は大敵なのです。（大籠）



▲クルリポウ



「クルリ」活動の紹介や手話習語、人形劇などで、楽しいあいのときを、皆さんと過ごしました。ボランティアのついでに、6月2日(内)4日出、市役所1階・市民ホールほか



▼わんぱく力士たちの気合いが、会場中を熱くしました。「わんぱく相撲大会 所沢場所」。(撮影/市民カメラマン・池田敬明) 6月12日(日)/市民体育館

街の写真館



▲リズムにあわせて、全員で楽しくレクリエーションダンス。470人の大きな人の輪ができました。「健康体操のついで」。5月16日(月)/市民体育館

はっぴーとこ 野老 子

歌って・笑って・ふれあって「あそび虫」

青木 建さん (こぶし町在住)



「あそび虫」ってどんな虫？それは遊びに夢になる虫のことです。人々を遊びのとりこにするレクリエーショングループ「あそび虫」、そのリーダーが青木さんです。

あそび虫は色鮮やかなユニフォーム（実はパジャマ）を身にまとい、ギターを片手に楽しいおしゃべりと歌や踊り、障害児者施設や学校、保育園、老人ホームなどへあそびの出前をしています。子どもたちはもちろん、お年寄りにも大人気です。

活動のモットーは、『いつでも・どこでも・だれでも』『歌って・笑って・ふれあって』で、「レクリエーションは、人と人とのつながりでいい気持ちになること、させること。笑って、元気になって、少しやさしい気持ちになれる」と青木さんは話します。多い年は年間50〜60か所で行った活動をしてきたそうですが、最近では仕事の関係などで『開店休業中』



「あそび虫」の皆さん

？』とのこと。それでも毎年「おじゃま虫」しているのが、重度心身障害児とその親や兄弟姉妹との交流会。寝たきりの子どもたちにどうやってレクの楽しさを伝えるのかと聞いてみると、「楽しみ方って人それぞれ。歌やゲームが楽しいだけでなく、笑っている人を見て楽しむという楽しみ方もあります。お母さんが笑っていると、子どもたちもやさしい顔になり、それを見て私たちも笑顔になります。『笑う門には「人」きたる』で、笑顔は伝染することを教えてもらいました」と楽しそうに話す青木さん。さらに、「このボランティア活動を続けていくことは、たいへんなのでは？」との問いかけに、「さまざまな人の出会いとつながりを楽しませてもらい、元気をもらっているのは私たちのほうなんです」とも。

また、青木さんにはもう1つのボランティア活動があります。それは障害者スポーツ大会の企画や運営で、今は10月2日に開催予定の『障害者スポーツフェスティバル』の準備に大忙しです。「スポーツを通じた人と人とのつながりを皆さんにもぜひ見てほしい、応援してほしい」と、熱く呼びかけています。

楽（たの）探（たん）

上安松・三村 絹代

私は、お天気が良い日はできるだけ歩きたいと思っています。でも、これが簡単そうではなかなかできないものです。自転車がある、つい乗ってしまいます。何年か前までは、「トコソワ歩こう会」というサークルに入っていて、10kmくらいは何と歩いていた。しかし、一回入院などをしているうちに、5km、3kmと歩く距離が短くなってきてしまいました。今では、周りの人から航空記念公園でも1周して来たか？と言われるくらいです。

沈黙黙考

林・池田 重男

五月が過ぎると梅雨の季節、やっぱり雨は憂うつな季節だと思えます。しかし、この気ぜわしい時代、物は考えようです。雨期には昔の人が考えたように、静かに座ってテレビや雑音音を避け、沈黙黙考をします。はるか過去を懐かしんだり、明るい未来を夢見たりしながら静寂のひとときを過ごすことも、人生の喜びのひとつではないでしょうか。

私の幸福のひびき

北秋津・大島 康子

♪雨、ふれぬれ母さんが...♪
朝目をさますと、せつかくの休日替
雨、少しがっかり。でも気持ちを切り替
え、覚えたての歌の練習。そしてラジオ
を聴いたり、絵を書いたりしています。
朝食後は、いつものように傘をさし、
歌を口ずさみながらの散歩。雨の日は、
周りの木々、そして家々の草花が天の恵
みを受け、どことなく爽やかな一層生き
生きと感じられます。♪雨では、色とり
どりの傘の花が咲いてほしいな♪
梅雨期に入りましたが、私は、思いま
す。雨の日も心ひとつで味方にして、楽し
みにしていけること...

心は雨のち晴

下宮 斉藤 恵久

でも、何日も続くのは嫌ですね。そんなときは、昔を思い出し、やってみよう。サンダルや靴を空に飛ばし、「あした天気になろうれ」。きつと晴れるぞ！

誰でてもイ

ツセ

イ

テーマ
雨の日の過ごし方

ところざわの町内会めぐり

【小手指地区・第8区自治会】 ～サークル活動で親睦・交流を図る～

所沢市の西部、北野地域の東側に小手指第8区自治会はあり、東組と西組に分かれていますが、すべての行事を一緒に行っています。この地域には古い歴史をもつ有名な坂東第一北野天神社があり、春秋の例大祭では多くの人出でにぎわいます。

また、時代とともに世帯数も増加し、今では1,000世帯になろうとしています。町名地番変更により、今月から自治会の理事会において決定した「小手指元町」として再出発します。「小手指元町」元年を控え、地域の平穏無事と活気ある雰囲気づくり、親睦・交流を図るため、昨年から文化部の中に4つのサークルをつくりました。

民謡サークルは、納涼盆踊り大会を盛り上げ、楽舞会は、囲碁好きな人たちが集まります。園芸サークルでは、初夏と秋にさつきや菊の盆栽・山野草展を開催し園芸指導を行います。また、8区ゴルフ会では年4回程のコンペを実施しています。

体育部は、昔地域で建てた公民館の名前に由来する第3分館運動会や小手指地区体育祭に参加し、環境推進部は、環境美化デーのほかに毎年8月に東川の清掃を行い、河川の浄化に努めています。

また、防犯・防災部は、夏季と年末の防犯パトロール等に多数参加し、自主防災会も万一の災害に備え、研修会や救命講習会等を実施しています。

これらの活動を通して、明るく安心な街づくりが進んでいくことを、役員一同願っています。



納涼盆踊り大会

次回のテーマは「夏ばて対策」です

「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「夏ばて対策」▶締め切りは7月6日(休)必着▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係 ◎Eメール (アドレスa9024@city.tokorozawa.saitama.jp) も可。

